

# ワクチン接種者たちが、市民権危機の中で、ワクチン拒否派と団結し始める

Kelen McBreen

September 29, 2021

<https://www.infowars.com/posts/vaccinated-people-beginning-to-side-with-the-unvaxxed-amid-civil-rights-emergency/>

⇒世界の人々の団結は、グローバル・エリートが最も恐れるものだ。

⇒グローバルリストの、分断して征服する戦略は失敗しつつあるか？

ある ESPN のホスト、ワシントン州の警察官、また何百人ものイタリア市民たちは、地球上の諸政府が、ワクチンを受けていない人々を社会から孤立させ始めるにつれて、彼らの人権を擁護して、一斉に立ち上がりつつある。

ワクチンを受けた人々が、ワクチン反対者を擁護して抗議した最初の例は、先月、何百というイタリア人が、未接種の人々との結束を表明、Covid ワクチン・パスポートを焼却したときから始まった。

「グリーン・パスはいらない！」と、デモ参加者たちは連呼し、ワクチンを受けたイタリア人たちが、自分たちのカードを焼き捨てた。

それより先、今週には、ESPN のアンカーである Sage Steele が、ポッドキャスト“Uncut with Jay Cutler” に出演し、すべての被雇用者に Covid ワクチンを強制するスポーツ・ネットワークに対して、彼女の嫌悪の感情を表明した。

<https://www.podcastone.com/pd/Uncut-with-Jay-Cutler>

「私はこれを強制する会社に勤務しており、9月の30日がその実行期限です。それに反すればクビです」と、ステイールは、このリーグで12年間過ごし、引退したクォーターバックの Cutler に話した。

ESPN のスタッフたちは、この局の親会社「ウォルト・ディズニー・カンパニー」によって、9月末日までに注射を実行せよ、しなければ解雇すると、要求されていた。

スティールは、会社の期限のわずか数日前に、Covid ワクチンを受けたが、不承不承、「それは望まなかった」と言い、後で「敗北感」に襲われたことを認めた。

<https://nypost.com/2021/09/28/sage-steele-calls-espns-covid-vaccine-mandate-sick/>

「私はすべての人の決定を尊重します、本当に。しかし、それを強制されるのは胸が悪くなり、**いろんな意味で恐怖を感じるので**です」と、スティールは言った。「わたしは実は、こういうことになったことに驚いていないのです。特にディズニーに対しては——あのようなグローバルな会社という意味ですが。」

ESPN の放送パーソナリティは、この国のトップのスポーツ・スターのある者は、彼女を支持していることを、個人的に伝えてきていると主張した。しかし、彼女の不満は、キャンセル・カルチャーの暴徒を恐れるあまりに、誰もそれを公然とは言わないことだった。一方、スティールは、Orlando Magic をリツイートし、火曜日の Jonathan Isaac の言葉を紹介した。彼は公然と、選手はすべて Covid ワクチンを受けよという、リーグの圧力に反対していた、と語った。

<https://www.infowars.com/posts/watch-nba-stars-push-back-against-vaccine-mandates/>

火曜日には、あるワシントン州の警察官が、ある注目されたビデオを TikTok に投稿し、「私は完全にワクチン接種をしているが、私は、自分の Blue Families の選ぶ権利を死守する!!」と宣言した。

23 年という年月を米軍で過ごし、更に 10 年を警官として勤めてきた、キング郡保安官局の Bailey 副官は、彼のバッジを返却しようとしている。

「私はこれで、きっぱりやめる」と彼は部下たちに言った。「私は、我々が通過してきたすべて——警察の解体、憎しみの解体、警官の動機の解体など——があった後で、彼らが我々に味わせたすべてにもかかわらず、私は毎日、欠かさず、自分の仕事に生き甲斐と意欲を感じてやってきた。」

ベイリーは続けて言った、「私は、この組織の外の他の人々が、我々のことをあまり考えてくれなかったとしても、気にしなかった。それはすべて、この〈ファミリー〉に関することだった。しかし、それが内部から毒をもつようになったとき、人々が内部で、お互いに関心を持たなくなり、…自分たちに役目に関心をもたない、このキング郡シェリフ局のような、毒性のリーダーシップを持つようになったとき——それは私にとって、あまりにも耐え難いものとなった。」

今、これまでの何より重要なことは、世界の人々が、人々に不和を起こさせる、グローバルリストのメディア宣伝に耳を傾けることをやめて、人間としての自由のために団結することである。

### 【訳者 Greatchain より】

これは短い、重厚な短編小説のように読める。そしてそれは、良心や正義や魂のことを教える感動の物語——人の心は切羽詰まったときに、どう働くかの物語である。この他にも、この警察官のような例が報告されていて、長年の功績の報酬である年金や諸特権が、ワクチン注射を拒否することによって、全面拒否されても、あえて甘受する人々がいるようである。

この Covid ワクチン接種の問題は、期せずして、我々がこのブログですっと前から論じてきた、魂を悪魔に売るか売らないかの問題に、ぴったり寄り添うものであることがわかってきた。ワクチンの強制注射は、比喩でなく現実に、悪魔の注射である。悪魔は、生きなければ、我々に魂を売ることによって生き延びよ、と言っているのである。

生き延びるために、スティーラーや他の多くの人々のように、**苦しんだ上で**ワクチンを受け人々を、我々は非難することはできない。しかし、良心に訊ねて、悪魔との取引を拒否する人々も、いるということである。我々はどちらを選ぶか？ 悪魔に屈することが正しいと宣伝する、メディアに屈するか？ もしそれは不可能だというなら、ここに書かれているように、世界全体が、「人々に不和を起こさせる、グローバルリストのメディア宣伝でなく、人間としての自由のために団結する」以外に、方法はないと思うがどうか？

「ワクチン暴政」の実態が、これほど明らかになって、きょう今からの行動が要求されているときに、「ワクチン接種」の宣伝をするのは、あまりにも世界を知らない話ではないか！ ワクチン接種の強制はしていないと言われるかもしれないが、宣伝の背後にあるのは常にグローバルリストの意志である。